

- 都市計画は官民協働で行い、流域での治水を考えるべき
- 個人の洪水対策への優遇が図られると良い

1-8 情報の提供が大切

- 危険箇所等の情報提供が大事(3)
- 計画づくりに関するフィードバックをきちんと行うべき
- 災害時の安全性についての情報提供が必要
- 災害の補償も明確にしてほしい

2 雨水貯留・雨水浸透対策をどのように進めていくべきか？

2-1 流域全体で一体的に雨水貯留・雨水浸透対策を推進すべき

- 治水のため、市民・行政、上下流域が一体となって取り組むことが必要(34)
- 開発を抑制し、森林や緑地の確保を通して、保水能力を確保すべき(18)
- 雨水を再利用することが大事(7)
- 治水のため、上下流域が一体となって取り組むとともに、自然環境にも配慮すべき(7)
- 下流の被害を抑えるため、保水への取り組みが必要(3)
- 市民個別の雨水貯留では効果が期待できないため、市民・行政が一体となって取り組むべき(2)

2-2 雨水貯留・雨水浸透のための適切な設備を設置すべき

- 貯留タンクによる家庭での雨水の再利用を促進すべき(9)
- 雨水貯留施設が設けられれば、安心できる(4)
- ダムなどができるのは好ましくない(3)
- 雨水貯留対策として、貯水池をつくるのがよいのでは(3)
- 貯留施設は必要だと感じるが、根本的には自然の保水能力を高めることが必要(3)

- 水田を保水能力の一部と考え、対策を検討すべき(2)
- 公共施設の地下を貯留施設として活用すべき(2)
- 浸透性の高い舗装などの敷設を推進すべき(2)
- 雨水貯留は必要と思うが、費用をかけすぎるのは問題(2)
- 河川には手を加えず、貯水に都市の地下を利用すべき
- 過去のデータに基づいて、貯留施設を計画すべき
- 工事を中止された更地が洪水の原因とならないかが心配
- 地下の許容量が不足しているので、地上に貯留施設が必要
- 貯留施設の設置には、それに有効な場所を慎重に検討すべき

2-3 雨水貯留等と併せて他の施策を実施することも重要

- 貯留施設だけでなく、河床掘削など併せて行うべき。森林保全による涵養能力も高めるべき(2)
- 雨水貯留が重要であるとともに、川の水質にも注意が必要(2)

2-4 雨水貯留等の施策では限界があるのではない

- 河道の改修等抜本的な解決策を講じるべき(7)
- ダムを造ることで対応できないのか
- 衛生・交通への影響が考え得るので、貯留施設に反対
- 雨水貯留の必要性は感じない
- 洪水・水害対策のために堤防整備を重視すべき
- 洪水とうまくつきあっていくことで良いのではない
- 上下流域の人々がともに満足することは不可能

2-5 雨水貯留・雨水浸透を効率的に進めるためのメンテナンスも重要

- 雨水貯留・浸透設備の設置は重要だが、メンテナンスが不可欠なので、心がけやそのための取り組みが必要(5)

2-6 各人が協力できる枠組みの充実が必要

- 各人が協力することが大切。そのための設備の強化や補助の推進を期待(16)
- 雨水貯留や浸透対策を推進するための市民への啓発活動をすべき(8)
- 貯留タンクの利用を促進するため、行政でPRを行うべき(3)
- 一人一人の心がけが大切
- 雨水貯留対策に関するより多くの情報の普及、補助を促進すべき
- 市民の意識啓発の場が必要。その場として、市民農園を活用し雨水利用を図るべき
- 自然環境を優先すべき。また、家庭の貯留タンク設置に補助金を出すべき
- 設備の補助制度や条例は、市民の負担が平等になるように配慮すべき
- 歴史的・地形的に洪水が多発してきたことを広く知らしめるべき

3 内水被害解消をどのように進めていくべきか？

3-1 洪水時にポンプを止めなくて良い程度の整備をすべき

- 洪水時にポンプを止めないようにできないか(2)

3-2 内水被害を軽減すべく、適切な措置を講ずべき

- 内水被害軽減のため、流域の保水能力向上に努めるべき(2)
- 都市内で水を一時的に貯められるような施設や設備を設置してはどうか(2)
- ダムに代わる貯水機能を検討すべき
- 上流からの流出を減らすべき
- 下水雨水管路貯留などの内水に効果がある設備設置を期待

3-3 内水対策に関する情報が少ないので、情報を提供して欲しい

- どのような内水対策が図られているのかよく分からないので、情報提供すべき(4)

4 治水工事をどのように進めていくべきか？

4-1 洪水・水害を抑えることを第一に考えた工事を推進すべき

- 人の安全を第一に考えて、堤防嵩上げや河道掘削などなどの治水工事を施すべき(10)
- 土砂の堆積のために河川が溢れることのないよう、早めの対処を期待(6)
- 河道掘削等で自然が失われるのは仕方がない(5)
- 流量を確保するため、川を拡張できないか(3)
- 堤防が低くて不安なので、堤防をかさ上げすべき(3)
- 河川敷の大木は今後大雨の際に影響が考え得るので、伐採すべき(2)
- 堤防高をそろえるなど、場所の不公平感をなくすべき(2)
- 自然環境を大切にすることも大事だが、洪水を防ぐための対策を施して安全になるのが一番(2)
- 現状の手法では限界があるため、抜本的な対策を施すべきではないか
- 情報を考慮しつつ検討を進め、品質の確保を図ってほしい
- 河床やダムを浚渫し、貯水量増加を図るとともに、浚渫土砂を活用すべき
- 河道をコンクリートで固め、しっかりした構造とすべき
- 洪水・水害対策のため、堰を設置し定期的に浚渫すべき
- 堤防工事等の一方、内水対策も行うべき

4-2 自然環境への影響を考慮して治水工事を行うべき

- 極力自然を残し、環境影響が少ないような手法が望まれる(22)
- 河道掘削等で失われる自然環境は、復元すべき(14)